8

金沢医科大学
氷見市民病院

氷見あいやまガーデン

目　次

病院フォーラム2009 …… 2
新着任医師紹介…… 3
インフルエンザ情報…… 3
低侵襲心臓手術…… 4
セラピーコンサート開催…… 5
低たんぱく米「春陽」稲刈り …… 5
学生実習体験を指導…… 6
糖尿病ヘルシークッキング…… 6
医療安全対策部講習会…… 7
ふれあい看護体験…… 7
高校生と園芸交流活動…… 8

理　念

私たちは「生命への畏敬」を医療活動の原点として、次のような病院を目指します。

・医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
・住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
・地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
・将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。

金沢医科大学氷見市民病院フォーラム2009

平成21年7月25日（土）午後2時から氷見市民会館ホールにおいて、金沢医科大学氷見市民病院フォーラム2009が開催されました。当日は一般市民の方々を含む約350名の参加をいただきました。

はじめに竹越 襄最高経営責任者、山下公一金沢医科大学理事長、堂故 茂氷見市長から挨拶があり、平成20年4月からスタートした公設民営化についてこれまでの経緯が紹介されました。このあと総務省地域企業経営企画室課長補佐 辻井宏文氏を特別講師としてお迎えし基調講演が行われ、「公立病院改革プラン」を中心に、公立病院経営の現状と期待される役割、地方公共団体の取組むべき方向性等について説明をいただきました。

高島茂樹病院長から「指定管理者としてのこの1年を振り返って」と題した講演があり、引き続き、斎藤人志教授、木越俊和教授、坂本 滋教授から金沢医科大学氷見市民病院の最新医療について紹介がありました。第2部のパネルディスカッションでは、神田享勉教授の「地域医療学の観点から」と題した講演のあと、6名のパネリスト（高島茂樹病院長、飯塚秀明金沢医科大学病院病院長、丸山隆司氷見市市民部参事、伊藤澄美子看護部長、中農理博金沢医科大学常務理事、木村晴夫事務部長）が加わり、公設民営化後の病院の体制、住民にとっての医療環境、高齢化社会への病院としての対応、新病院で目指す医療などについて活発な意見交換が行われました。最後に、高島病院長の挨拶により盛況のうちに閉幕しました。

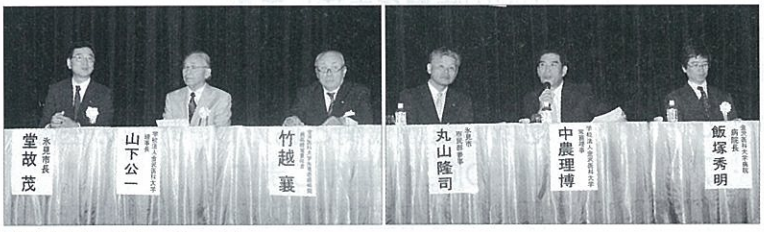
今回のフォーラムでは、金沢医科大学氷見市民病院の運営方針を紹介するとともに、地域住民・大学・地域の医療機関・行政の方々が一体となって取組む必要性と方向性が示されました。

（総務課　宮井公一）

竹越 CEO による開会の挨拶

総務省 辻井宏文先生

高島病院長の講演



パネルディスカッション

情報交換会（懇親会）の様子

新着任医師紹介

伊藤　智彦 医師

内分泌・代謝科准教授（H 21. 10 月着任）
専門分野：内分泌代謝制御学
氷見市民病院は非常に多忙な病院ですが、臨床（特に地域医療）に力を入れ、頑張っていきたいと思います。
趣　　味：将棋・麻雀・競艇

山下　尚洋 医師

循環器内科講師（H 21. 9 月着任）
専門分野：循環器内科、心不全、不整脈、ペースメーカー植込み
地域医療を頑張ります。
趣　　味：モータースポーツ観戦・参戦、チューニングカーによるサーキット走行

山本　純平 医師

耳鼻いんこう科助教（H 21. 11 月着任）
専門分野：耳鼻咽喉科一般、嗅覚障害
外来診療日の拡大に伴い、幅広く氷見の医療に貢献していけると考えています。
趣　　味：ドライブ、釣り、音楽鑑賞

インフルエンザ情報

新型インフルエンザが富山県内でも流行してきています。皆さんもインフルエンザについていろいろな情報を知っていると思いますが、再度確認してみましょう。

症状は、「咳や鼻水が出る」「38度以上の発熱」「全身がだるい」「頭痛」「筋肉痛」などです。インフルエンザ迅速キットで調べ、A型陽性の場合は新型インフルエンザの可能性があります。現在、新型インフルエンザの遺伝子（PCR）検査は実施していないため、季節性インフルエンザと見分けがつきませんが、現在流行しているのはほとんど新型インフルエンザと思われます。

咳やくしゃみをした時に出る飛沫には、ウイルスが含まれており、そのウイルスに触れたり、吸い込んだりして感染していきます。一番簡単な対策方法は「咳エチケット」です。咳やくしゃみが出る方はマスクを着用し、ウイルスを周囲に放出させないようにしましょう。

（院内感染対策委員会・感染管理認定看護師　谷畑祐子）

胸部心臓血管外科だより

低侵襲心臓手術

胸部心臓血管外科教授　坂本　滋

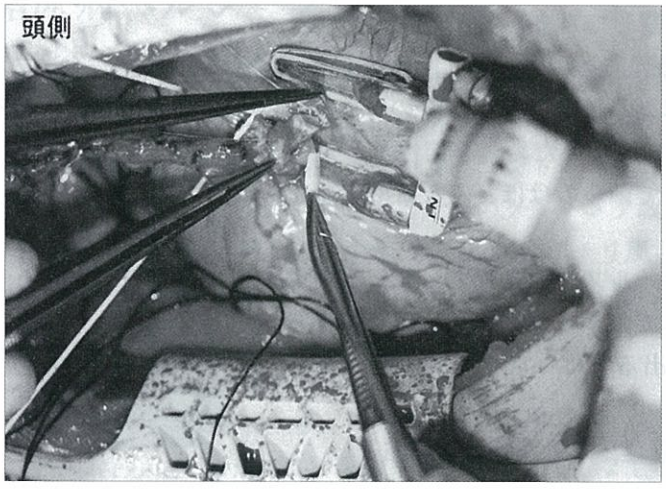
現在、日本人の死因の第1位は癌で、第2位は心臓病、第3位は脳血管障害となっています。死因の第2、3位はいずれも動脈硬化が原因となって発症する動脈硬化性疾患とも言われ、両方を合わせると癌を抜いて日本人の死因の第1位になります。この動脈硬化性疾患のうち、死因の大部分を占めているのが虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）です。虚血性心疾患とは、心臓の筋肉（心筋）に栄養を与える動脈、冠動脈の病気のことで、冠動脈の内腔が狭くなり、心筋に血液の不足を起こすことが原因で起こります。一般的には冠動脈硬化の程度の軽いものを「狭心症」といい、さらに進行し冠動脈の内腔が詰まった状態を「心筋梗塞」といいます。

心臓の外科的治療は、もともと身体にメスを入れることから生体に悪い影響を及ぼすという印象がありますが、病気を治すことを考えると必要なことです。心臓手術は人工心肺装置という補助手段を使い行わなければならないのですが、これが心臓以外の他臓器に負担がかかり、手術後に肝臓、腎臓、肺、脳などの重要臓器に機能低下を起こしてしまい、生命を脅かす余病を引き起こすこともあります。近年、高齢化社会が進む中で、心臓手術が必要な高齢の患者さんが増えています。高齢な方は、肝臓や腎臓、肺機能の低下及び心臓以外の他臓器の動脈硬化も進行している場合が多く、特に下肢や、腹部の動脈硬化が進んでいます。この場合、従来の人工心肺装置を使い心臓を止めて行う手術では術中及び術後に余病を引き起こす可能性があります。そのため人工心肺装置を使わない心拍動下冠動脈バイパス術が従来の人工心肺装置を使う手術に比較すると、生体に悪い影響を及ぼすことが少ない方法であり、このような「低侵襲手術」が注目されています。

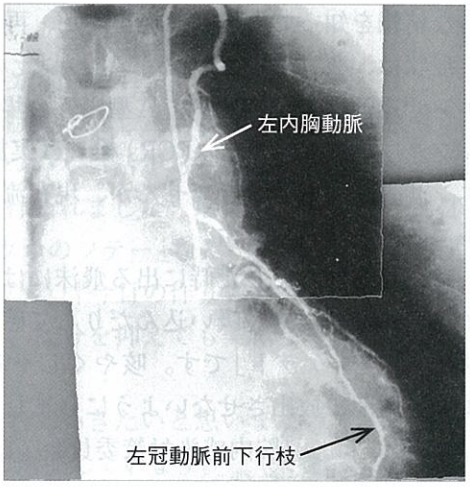
本院の胸部心臓血管外科では、医療サービスの向上を図るため、富山県西部地域の循環器疾患治療の拠点となるよう体制を整えています。循環器内科と胸部心臓血管外科の医療チームが一体となり、様々な循環器疾患に対して昼夜を問わず診療できる循環器専門のセンター形式の診療体制を考えております。内科、外科を問わず一貫した診療体制をとることで、緊急を要する患者さんにも迅速な処置が行えるようになります。また心臓血管撮影室での急性心筋梗塞のカテーテルインターベンションの治療も行っています。

内科、外科が一貫した治療を行うことで、「患者本位の医療」を実践できると考えております。今後、富山県西部地域での循環器疾患治療の拠点となれるようスタッフ一同頑張っていきたいと思っています。

心拍動下冠動脈バイパス術



術後冠動脈造影写真



セラピーコンサート開催

海棠看護師のソロ演奏

平成21年8月29日（土）、氷見イタセンパラ吹奏楽団によるセラピーコンサートがリハビリテーション部において行われました。氷見イタセンパラ吹奏楽団は富山県西部を中心に活動している楽団で、「地域に根ざした活動をし、地域の方々に愛される楽団に」という想いで、日々病院や学校などで演奏されています。今回は入院中の患者さんに少しでも早く元気になってもらいたいと、楽団員の一人でもある、本院の海棠広子看護師も参加してくれました。海棠看護師の軽快で乗りのいいソロも交えながら、美空ひばりメドレーなど全5曲を演奏していただきました。

また、会場に来られた患者さんの中で8月誕生日の方には、看護部よりメッセージカードを添えたお花が贈られました。患者さんからは、「楽しい時間をすごせました」「看護師さんの違う面が見れて嬉しかった」などと喜んでいただけました。私たち病院スタッフも海棠看護師のように、仕事ばかりでなく、周りの方々の心を温かくできるような趣味を持ちたいと思いました。次回はクリスマスコンサートを開催したいと思っています。

（看護部　泉　晴美）

誕生日のプレゼント贈呈

コンサート風景

低たんぱく米「春陽」稲刈り

刈り取った稲を束ねている様子

本院では低たんぱく米「春陽」を、腎臓の機能が低下しタンパク質の摂取が制限されている患者さんに、ご飯を美味しく食べながら食事療法が行えるように利用していきたいと考えています。

平成21年9月27日（日）胡桃地区で「春陽」の稲刈りが行われました。秋晴れのなか、有磯高校生と一緒に糖尿病患者会の皆さんと、本院からは高島病院長、内分泌・代謝科小西先生など職員20名が参加しました。春に植えた苗が立派に実をつけている風景には参加者も感動し、楽しみながら稲刈りに汗を流していました。

詳しくは糖尿病教室担当スタッフまでお問い合わせください。

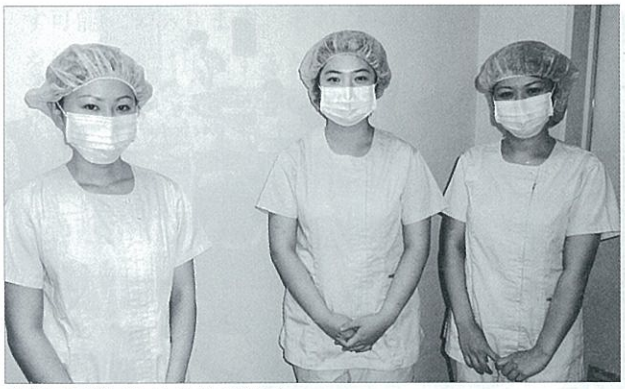
（看護部　東海喜代恵）

学生実習体験を指導

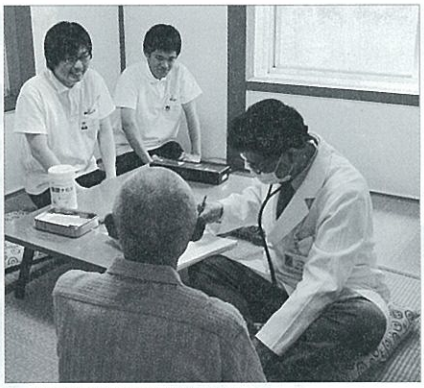
総合診療科教授　神田 享勉

平成21年4月から、金沢医科大学医学部の1学年、4学年、5学年生が断続的に実習にきています。1学年生には病棟の患者さんとお話をしてもらいました。大正生まれの方と平成生まれの学生とでは接点が少なく、また緊張もあり、はじめは沈黙が長かったようです。ちょうどテレビで野球をやっていたので野球選手の話になり、ようやく打ち解けることができました。4・5学年生には手術見学をしてもらいました。左の写真は、着替えていざ手術見学へという勇ましい姿です。女子学生が多く、一見看護師さんとの見分けがつかない上に、さらにマスクを着けているので個人の特定も困難でした。へき地診療には、どの学年にも経験してもらいました。一様に興味を持ってもらえたようで、患者さんがとても元気そうで生き生きしておられたことに感動していました(写真右)。

外来や検査での実習は忙しく、それをてきぱきとこなす医療スタッフに眼を回していたようでしたが、日常生活を垣間見ることの重要性を学生に教えることができて良かったと思います。その中で自分たちがどう関わっていけるのか不安そうでしたが、それ以上に期待も大きく、大学での講義では味わえない緊張感や充実感が感じられ、とてもいい実習になったと思っています。



実習で手術室に入る前の様子



へき地診療での実習風景

糖尿病ヘルシークッキング

平成21年6月13日(日)創作工房ひみにおいて、糖尿病教室が開催されました。

はじめに、内分泌・代謝科木越俊和先生より「糖尿病と腎臓病」と題した講義が行われ、糖尿病から起こる腎症を予防するための日々の自己コントロール方法についてお話がありました。その後、血糖をコントロールし、腎症を予防するためのクッキング教室も行われました。地元で採れる旬の食材を使い、「春陽と十六穀米の炊き合わせご飯」「エビチリ風トビウオのソテー」など6品のヘルシー料理を作りました。参加された方々からは、「実際に家でも作ってみたい」「今日の作り方で、日々塩分を取り過ぎていたことがわかった」「いろいろな調味料を使うことで、塩分を抑えても美味しく食べることができる」などの感想が聞かれました。

今後も、楽しんで学べるように充実した内容の教室を開催していきたいと思いますので、皆さんの参加をお待ちしております。糖尿病教室は、毎月第2土曜日に開催しています。　(栄養部　長谷 恵)

医療安全対策部 講習会
「医療事故発生時対応の研修会」報告

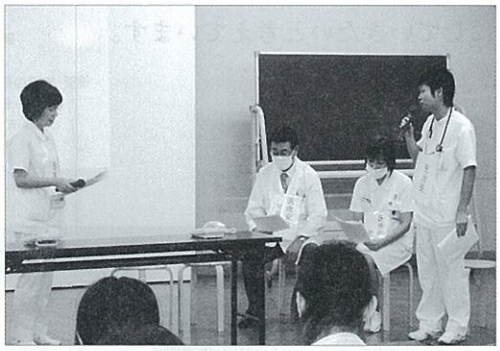
金沢医科大学病院前田一美医療安全管理者

平成21年10月2日（金）院内講堂にて「医療事故発生時対応の研修会」を開催し、院内外から65名の参加がありました。「医療事故」はあってはならないものですが、発生した場合には、スタッフが混乱せずに必要な対処を行い、スムーズな業務連絡や報告ができるように訓練が必要です。

今回は「異型輸血発生」を想定し、高島病院長をはじめ12名のスタッフが、事故発生時の初期対応や連絡方法を実演しました。実演を見ながら研修を行ったので、参加者からは「わかりやすかった」と好評でした。

また、金沢医科大学病院の前多一美医療安全管理者から、「連絡網の明示と事故発生時のスムーズな報告、当事者への精神的な配慮が大切である」とのコメントをいただきました。

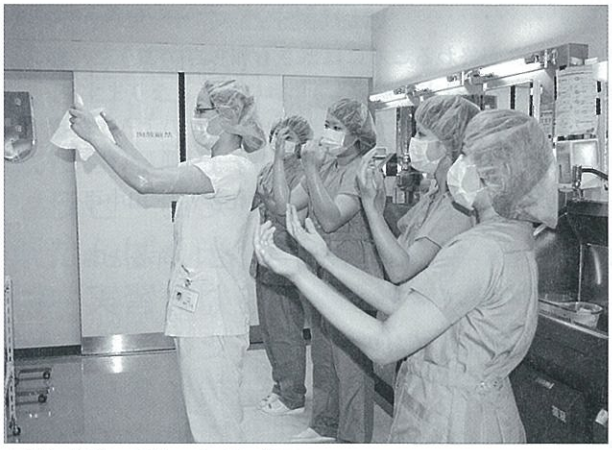
本年度は、より充実した研修内容で実施しますので、ご期待いただきたいと思います。　（医療安全対策部　長井絹子）


医療事故発生時の実演風景

ふれあい看護体験

毎年5月の看護週間に合わせて、平成21年5月28日（木）に「ふれあい看護体験」が行われました。

今回は、県立有磯高等学校生活福祉科の1年から3年生13名が参加し、手術部で看護体験をしました。最初に手術室内着のユニフォームに着替え、手洗い、滅菌手袋・ガウンの装着を行いました。手術前の「3分間手洗い」を行いましたが、「とても難しい」「細かい洗い方にびっくりした」などの感想が聞かれました。滅菌ガウン・手袋の装着も難しそうにしていましたが、装着後の記念撮影ではとても満足そうな表情になっていました。また、患者体験では本当の手術台に上がり、実際にモニターによる心拍数や血圧測定などの体験や、手術中に看護師が行う無影灯の照らし方なども学習しました。「映画やテレビドラマでしか観ることがなかった手術室で、緊張と興奮の中で貴重な体験ができてとても嬉しかった」との感想が聞かれました。この看護体験をとおして、改めて看護師になりたいと思った方も多く、看護職への理解を深めるとともに一人でも多くの学生が看護師になってくれることを願っています。　（看護部　東野順子）


実際に術前の手洗いをする様子

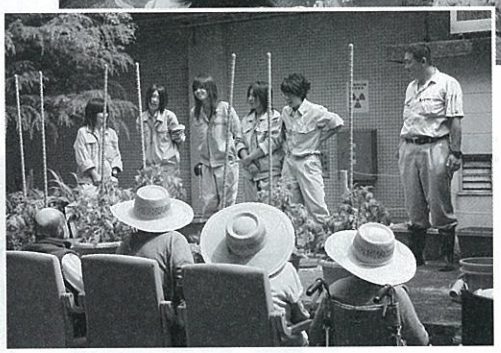
有磯高校生と通所リハ利用者の園芸交流活動

平成21年6月17日に県立有磯高校の先生、生徒さんと通所リハビリ利用者の皆さんとの園芸指導交流が行われました。今年で3回目になりますが通所リハ利用の方々はこの園芸指導交流を心待ちにしておられ、自ら植えられた野菜の成長を日々楽しんでいます。参加された利用者の方は最近まで自宅で農業をされていたので、野菜が病気にならない方法や肥料の量など詳しく教えてくださり、植えたトマトやゴーヤ、チンゲン菜も立派に成長しました。できた野菜は利用者の方々とスタッフで調理し美味しくいただきました。

秋には白菜を植え、利用者の方々と生育方法だけでなく、美味しく食べられる調理法も話し合いながら、野菜の成長を楽しんでいきたいと思っています。

今後も、通所リハビリのみではなく、地域の皆さんとの交流も続けていき、活力のある生活ができるようにしていきたいと考えています。

（リハビリテーション部　新 清浩）



高校生と一緒にトマトの剪定をする通所リハビリ利用者の皆さん

編集後記

大雪だった今年の冬も、熱気につつまれたバンクーバー オリンピックが終わるころには寒さも和らぎ、ようやく春のきざしが感じられるようになりました。公設民営化された金沢医科大学氷見市民病院も3年目に突入となりますが、地域医療における医師不足や医師の偏在化が大きな問題となっており、氷見も例外ではありません。このような医療問題の早期解決、そして地域に優しい医療への改革を現政権に切に期待したいものです。

（広報委員会副委員長・一般・消化器外科 田中弓子）

〔表紙〕氷見に新しくオープンした「フォレストフローラル 氷見あいやまガーデン」にて撮影しました。一年をとおし、四季折々の花を見ることができます。立山連峰と海が見える素敵な空間が楽しめます。

募集：広報誌表紙写真を募集します。病院内外問わず、皆様のご応募をお待ちしております。
問合せ先：金沢医科大学氷見市民病院総務課　☎ 0766－74－1900（内線 293）
E-mail: kmu-himi@kanazawa-med.ac.jp

金沢医科大学氷見市民病院 総務課　〒935－8531 富山県氷見市幸町 31-9　TEL 0766-74-1900　平成 22 年 3 月 15 日発行